

図29

人心を開発し、救済する

動機づけを高める

実行を勇気づける

失敗時に励ます

達成時に共に喜ぶ

ニーズを知る

← 人心の開発救済



道徳の学習や実践による安心感や喜びを相手と共有するには、
様々な気づきやサポートが重要です。

は限りません。しかし、モラロジーの独特な学びと実践から、安心や喜びを感じることもしょなくないはず。この自らが感じた安心や喜びを、未経験の人に同じように感じてもらおうことが「人心の開発と救済」の基本となります。

自分が学びを深めるほど、また、実践を積むほど、相手を知的に開発し、感情的に救済しやすくなりますが、大事なポイントとは、前述の自転車の例と同様に、言葉で説明し、実践して見せるだけでは、十分でないことです。子どもが自転車に乗れるようになるまでは、荷台を支える、や、危険のないように見守る、などのサポートが欠かせないように、他者の心を開発・救済するには、相手のニーズを知る、動機づけを高める、実行を促すよう勇気付ける、上手くいかなかった場合に励ます、達成できた際に共に喜ぶ、等の伴走が重要です。

また、相手の心を開発・救済するプロセスの中で、かえってこちらの学びや喜びが深まることもあります。人心の開発救済は、自分自身をも対象とした双方向の学習体系なのです。

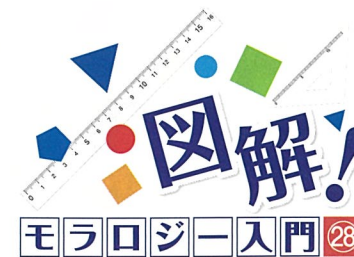
今月の範囲

第二部 実践編

第九章 人心の開発救済

一、人心の開発救済とは何か

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第九章の一、「人心の開発救済とは何か」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成 = 「れいろう」編集部

人心を開発し、救済する

—— 安心感と喜びを共有するために

柏生涯学習センター研修企画担当 もちづきふみあき 望月文明

初めて自転車に乗れるようになった頃を覚えていますか。最初から上手に自転車を乗りこなせた人は恐らくいないでしょう。家族や近隣の年長者の指導とサポートを受けながら、何度も練習を重ねて、転ぶことなくペダルを漕ぐコツをつかんだ時の喜びは格別だったはず。しかし、自転車に乗れるからといって、自転車の乗り方を上手に教えることができるとは限りません。自転車の乗り方を、言葉だけで説明することは思いのほか難しいです。目の前で実演しても、それを見た人がすぐに習得できるわけでもありません。この例は、今回のテーマである「人心の開発救済」にも通じています。

「人の心を開発・救済する」とは、これまで学んできた「自己中心性の克服」や「公平無私な慈悲心の体得」などを、知的に理解したり、実感を持って実践することで、安心と喜びの精神状態を得ることです(テキスト一三六一―一三七参照)。

この精神状態は、自転車に乗れた時のような「できた」という明快な感覚ではないかもしれませんが、一度得られたからといって、その後もずっと継続すると